

自立活動だより

令和7年3月18日(火)
福島県立聴覚支援学校会津校自立活動係
第3号

幼稚部の子どもたちは、毎朝、補聴器や人工内耳の点検をし、自分で装用する練習を続けてきました。1年前に比べると、ボタン電池やスイッチの扱い方にも慣れてきました。

小学部では、毎月合同自立活動で、友達によりよく伝えるための話し合い活動や友達や自分の聞こえを理解する学習を進めてきました。

相手にわかるように伝えるためには、言葉の力が必要です。相手の話をよりよく分かるために、聞く力、見る力、そして、やはり言葉の力が必要です。子育て座談会で話題になったことから、家庭でできる取り組みを紹介します。



春休みの生活に取り入れ、新年度のスタートに向けてステップアップしましょう。



令和6年度「子育て座談会」より



東北福祉大学 教授 大西 孝志先生のご厚意で、子育て座談会を開催しました。ご家庭でできる言葉や社会性を育てる取り組みについて、お子さんの年齢や実態に応じて、教えていただきました。



〈乳幼児期〉

その1 生活リズムを整え、お子さんにわかるサインを使いましょう。

毎日の生活の大きな流れを保つことが大切です。「そろそろごはん」「お風呂に入るころだなあ。」「お風呂のあとは、だんだん眠くなってきたから寝る時間かなあ。」という具合に、幼いながらに生活に見通しをもつようになります。生活の流れが安定していることは、気持ちの安定にも、安心にもつながります。きこえにくい子どもたちにとって、何をするのかわかることも大切です。音声言語や手話を身に付ける前は、ごはんなら食べる身振り、お風呂ならタオルでこする身振りなど、**簡単なサインを用いる**と、そのサインを見て、何をするのか分かるようになります。音声言語や手話言語の素地にもなります。



その2 絵本の読み聞かせを習慣にしましょう。

「同じ本ばかりもってくる。いろいろな本を読み聞かせしたいのに…。」という悩みもよく聞きます。幼児向けの繰り返しのある「いないいないばあ」のような絵本では、**絵の順番や内容を暗唱するくらい、繰り返し読むこと**がポイントです。読み聞かせをしていて、ページを飛ばしてしまったときに、「ちがうよ!次は、〇〇だよ。」と気づくことができれば、お話の流れを覚えているといえます。ここまで読み込んでみるのが大切です。同じ本ばかり聞いたがったときも、このポイントを知っていれば、お子さんの気持ちに共感しながら、揺さぶりをかけることができますね。まだ文字が分からなくても、**お兄ちゃん、お姉ちゃんの読み聞かせを一緒に聞く**ことも良い経験です。できれば、手話や身振りを付けて読んであげると、概念の形成を助けます。



その3 はじめての〇〇をたくさん経験できるようにしましょう。

水遊びや雪遊びなどの季節の遊びだけでなく、玩具のラッパを吹く、巻笛やしゃぼん玉遊びをするなど、遊び方も発達段階に合わせて取り入れます。最初は、大人が作ったしゃぼん玉に触ったり、ぱちんとつぶしたりすることでも十分です。ラッパや巻笛は、遊び終わったときに、吹き口をすすいだり、ウェットティッシュで拭いておいたりすれば、衛生面でも安全です。お風呂でストローを使ってぶくぶく泡をつくったり、浮かべたボールを吹いたりして遊ぶのもいいですね。発音の練習につながります。



〈児童期〉

その1 年中行事を経験しましょう。

節分や桃の節句、端午の節句、七夕、お月見など、季節を感じる年中行事がたくさんあります。行事ならではの食べ物や習慣があります。ぜひ、お子さんと一緒に取り組んでほしいです。

恵方巻(海苔巻き)を一緒につくる、しょうぶ湯に入るなど、ご家庭だからできることです。季節感を感じる感性が育ちます。



その2 お手伝いを積極的にさせましょう。

料理の手伝いを経験させたいものです。ぎょうざや海苔巻き、サンドイッチなど、どんな材料が使われているのか、**どうやってつくるのか実際に見て、手に触れる**ことで身に付けられることがあります。大人の準備は大変かもしれませんが、親子での会話も弾みます。学校での調理実習は、材料や分量を細かく決めて取り組みますが、実際は、冷蔵庫にあるものを活用して食事をつくることも多いので、お肉の代わりに〇〇を使うなど、生活の知恵が育ちます。



その3 家族でテレビを観ましょう。

好きなテレビ番組のない子は、日付や曜日の感覚が育ちにくいといわれます。動画配信や録画も便利ですが、**「〇曜日の〇時から～を観よう」と、リアルタイムで観る**ことをお勧めします。生活リズムが崩れると観ることができないので、その時刻までにお風呂を済ませる、食事を終わらせるなど、考える力が身に付きます。また、**家族で観る**ことで、お子さんが分からなかったことを補ってあげると、わかる言葉が広がります。



その4 手を使ってつくる体験をすることが大切です。

You Tube に負けない子育てにつながります。Googleカメラを使って、**ものの名前やつくり方を調べて、実際に挑戦する**ことで、スクリーンタイムが体を使った活動につながります。ミサンガ(プロミスリング)や布ぞうり、編み物など、一度つくることができると仕組みもわかるようになります。

